

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 4年 3月 21日

事業所名 多機能型支援事業所こたんと

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	1	2	1		
	2	職員の配置数は適切である	1	1	2	必要な際には、法人内職員に送迎をお願いしている。	事業所の配置基準は満たしているが、職員の求人は常に出している。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	1		3		
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	2	2		毎朝、職員で振り返りを行っている。	振り返りから、目標設定を行い共有までを行えるよう、ミーティングの方法を検討していく。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	3	1			
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している			3	1	事業所内で周知の方法をより、明確にし、HP掲載も合わせて検討、準備していく。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている			3	1	事業コンサル、社労士、税理士等様々な分野と相談を行っている。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	4				
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	2	2			
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	1	1	2		明確なアセスメントツールを作成、活用していけるよう、事業者内で検討していく。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	4			チーム全員が発言できる場と雰囲気づくりを行っている。	職員数を増やして、業務を均等に分散し、さまざまな視点・考えを取り入れていけるようにしたい。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	4			チーム全員が発言できる場と雰囲気づくりを行っている。	職員数を増やして、業務を均等に分散し、さまざまな視点・考えを取り入れていけるようにしたい。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	3	1			
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	3	1			
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	4				
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	3	1		職員の退勤時間が異なるため、翌日に時間を設定し、振り返りと当日の業務の確認を行っている。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	3	1			
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	4				
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	3	1			

		チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
関係機関 や保護者との 連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者 会議にその子どもの状況に精通した最もふ さわしい者が参画している	4			児発管が参加、必要 に応じて児童支援員 も参加している。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等 の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡 調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連 絡)を適切に行っている	3	1			
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場 合は、子どもの主治医等と連絡体制を整え ている		3	1		医療的ケアを必要とする利用児がいない。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認 定こども園、児童発達支援事業所等との間 で情報共有と相互理解に努めている	2	2			
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業 所から障害福祉サービス事業所等へ移行す る場合、それまでの支援内容等の情報を提 供する等している	1	2	1	該当年齢の利用児 がまだいない。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援セ ンター等の専門機関と連携し、助言や研修 を受けている	2	1	1	必要に応じ、地域福 祉センター所属の心 理士に相談、助言を もらっている。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障 がいのない子どもと活動する機会がある	2	1	1	法人内の保育園との 交流	コロナ禍により、地域施設との交流は行っていない。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加 している	1	1	2		
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合 い、子どもの発達の状況や課題について共 通理解を持っている	3	1			
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保 護者に対してペアレント・トレーニング等の支 援を行っている		2	2		現在、事業所職員向けにティーチャーズトレーニング の研修を行っている。 関係事業所から、研修案内等があれば保護者へ通知 している。	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等につ いて丁寧な説明を行っている	4				
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談 に適切に応じ、必要な助言と支援を行って いる	3	1			
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等 を開催する等により、保護者同士の連携を 支援している			4		コロナ禍により、計画・実行されていない。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応 の体制を整備するとともに、子どもや保護者 に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適 切に対応している	3	1			
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事 予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者 に対して発信している	3	1			
	35	個人情報に十分注意している	4				
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎 通や情報伝達のための配慮をしている	4				
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等 地域に開かれた事業運営を図っている		2	2		コロナ禍により、見学や交流は制限を設けている。

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
非常時 等の 対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	3		1		
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	1	1	2		事業所移転に伴い、新たな計画を作成中。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	4				
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	3	1			
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	3		1		食物アレルギーの対応事例なし。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	3		1		